令和９年度入試の出題意図・ねらい

国際関係コース　総合型選抜

全体
国際関係コースでは、北東アジアをはじめとするアジア地域や国際社会と日本との関わりやその中で生じる現代的な諸課題について、グローバルな視点から分析し、多文化共生のための知識を編み出せる人材を求めている。このアドミッション・ポリシーに沿って、近代東アジアにおける人と知識・思想の往来や日中間の歴史的な相互影響を扱った文章に基づいて出題した。各設問では、文章中に示された著者の考えや論理、歴史的事実を的確に把握できているか、また、文章中の情報や視点とこれまでの学習内容を結び付けて自己の見解を論述できるか、を確認する問いを設定した。
問１
言葉の「発明」について、文章の内容に即して的確に把握し説明できるかを問う。 国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点 ・　《求める人材》１(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。 ・　《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》２の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。
問２
「西欧の衝撃」が「中国の衝撃」や「日本の衝撃」という形をとっていた背景や、両国の相互影響の構造を分析・説明する力を問う。 国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点 ・　《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。 ・　《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》２の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。 ・　《求める人材》3(1)の「北東アジアをはじめとするアジア地域や国際社会、またグローバル化した国内社会が抱える課題に強い関心を持ち、背後にある歴史や地域的特性について主体的に探究しようとする姿勢」を見る。

問３

本文の内容を踏まえ、日本と中国が互いに「内なる他者」である理由を説明する力を問う。そのうえで、「内なる他者」という視点を踏まえた近現代あるいは今後の日中関係についての自らの考えを、文章の内容を適切に参照しつつ、高等学校での学びや自身の経験と結びつけて主体的に考察・表現する力を問う。

国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点

- 《求める人材》2(1)の「北東アジアをはじめとする国際社会や、グローバル化が進む日本国内の社会が抱える諸課題について、根拠に基づき論理的な筋道を立てて考察し、自らの意見を説得力ある形でまとめ、他者に伝える力」を見る。
- 《求める人材》3(2)の「多文化・異文化への好奇心及び寛容な姿勢と、海外留学や学内外の様々な多文化共生活動について積極的・能動的に関わる志向性」を見る。
- 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》4 の「地理歴史・公民の知識を総合的に関連づけて問題関心を養い、自己の体験総体を生かして幅広い視野から日本及び世界で生じている複雑な社会現象を考察しようとする意欲」を見る。